

■第2回村上市森づくり基本計画策定委員会における主な意見

第2回委員会における主な意見	
(1) 第3号委員へのヒアリング結果の共有	
①	住宅建築時にどこの材を使用するか等は、工務店が決める要素が大きいため、村上の市産材を利用した工務店への補助については良い考えだと思う。提案として、1年間の市産材の利用数（建てた戸数や m3 数や金額など）で、工務店を表彰するのはどうか。上位5位まででもよい。新聞や広報で公表することで市民の方へ地産地消を頑張っているという PR となる。
②	林道の整備について、要望やヒアリングではあまり話がなかったようだが、林道整備の進行状況について教えて欲しい。
③	村上市産材は年輪が緻密との表現がされているが、そうではないと考えている。全国的な視線では、村上市産材は緻密ではない。そのため、市産材の利用にあたっては、評価をしっかりと調べて、良いところと悪いところを見極めていき、良いところを活かしていくことが重要なのではないかな。
④	家を建てるお客さんはどこの木材を使うかは気にしない方がほとんどなので、補助対象は工務店にすることは良い案である。また、木材の強度やアピールについて、「強度よりも郷土愛」という言葉を重視した方が良い。
⑤	担い手不足、森林整備が進まない件について、半年しか林業ができない人達に話を聞いて、フルシーズン林業が出来る地域の林業を手伝ってもらおうと良いのではないかな。このような形が林業の新しい形となるのではないかな。譲与税を活用した事業としては重要であるし、年間を通して作業をすることで教育も進み、担い手の確保にもつながると考えている。
(2) 村上市森づくり基本計画の骨子（案）について	
①	人工林が多い箇所については、沿線を重点的に整備する地域として特化させ、生産性のある箇所を整備していく方針が良いのではないかな。全体を整備することは現実的に難しいと考えられるため、条件不利森林に対する整備の必要性も承知しているが、より生産性の高いエリアを重点的に実施する等が必要ではないかな。
②	路網不足、大型車への対応などがあげられているが、大型車は搬出を想定しているものと考えられる。施業の効率化という点では、他地域での事例等も考えると機械化が問題ではなく、境界明確化と施業計画地の確保（集約化）が問題となっているケースが多い。施業対象地の確保が優先順位の高い課題と考えられる。

③	<p>森林経営管理制度を用いた市町村経営管理事業と経営管理実施権を交えた施業地の確保について森づくり計画に入れたほうが良い。市が主体となって、経済林の確保を積極的に実施するというような表現を入れた方が良い。</p>
④	<p>主伐再造林が必要という表現について、長伐期施業を選ぶ人もいるため慎重に取り扱ったほうがよい。効率的な造林作業は必要な取り組みであることから、主伐再造林が対象となった林分に対して効率的な施業ができるような施業体制の確保や低コスト再造林技術の確立などの表現が良いと考えられる。</p>
⑤	<p>広葉樹資源は「薪、木質ペレットの市産材のエネルギー利用」となっているが、広葉樹資源の利活用が山の価値を高めると感じているし、他県でも広葉樹が山の価値を高める取り組みが行われている。新潟県は特用林産が非常に盛んな地域であるため、広葉樹を雑木としてエネルギー化するだけでなく、広葉樹資源の活用の幅を拡大していくといった記載で基本計画の骨子に含めてはどうか。現状はスギの利活用がメインの計画であるが山の価値全体を高めるために広葉樹資源の活用の幅を広げることが重要である。</p>
⑥	<p>森林空間利用が取り上げられていないため、燕三条市などが行っているグリーンツーリズム等を取り入れてみると良いのではないかと。また、他事例では官民連携で人工林等でのフォレストアドベンチャー等のサービス提供も行っているので、ツアーから一歩進んで、森林空間を体験していただくとともに、山の価値や山の楽しみを子供たちへ気づいてもらうことも良いのではないかと。</p>
⑦	<p>目標林型を広葉樹林化としているが、時間軸がだいぶ先になると考えられるため、段階的な目標設定が必要ではないかと。例えば最終成立本数を100本にする等、手を加える範囲を設定して後は自然の遷移に任せるなど、どこまで管理するかを検討するとよい。</p>
⑧	<p>路網からの距離は300mも遠いと思ったが、500mは非常に遠いと感じる。現在林道から森林作業道を整備しているが、主要な林道との距離を考えると経済林の範囲が広くなりすぎてしまう。今後はもう少し距離についての検討が必要と考えられる。</p>
⑨	<p>動物との折り合いについて今後の森林整備は獣害対策も一体的に実施していくことが望ましいと考えられる。</p>
⑩	<p>経営林との区別については、地利だけではなく、生産力も考慮した方がよい。理由は、再造林後の保育にコストがネックとなるからである。初期成長を考慮したほうがよい（例えば地位から初期の保育間伐の回数を考えるなど）。</p>

⑪	重点エリアについて、県のあり方会議の資料では集落管理人工林等のまとまった森林等を重点化の対象にしていたと思うので参考としてほしい。
⑫	目標林型について 15 年たっても高木性樹種が入ってこず、間伐だけでは次に目指している混交林にならないのが現状である。地域的にナラやブナが最終林型として成立するデータもあるが、これらの種は種子の移動速度が遅い種類であり、間伐だけでは 20 年後でも難しい可能性がある。何年後に侵入してくるかも分からないものを計画にするのではなく、具体的に何年後にはどういう森林となるか等の目標について、もう少し具体的に検討したほうがよい。
⑬	重点的な地域に集中したほうがよいという意見があったが、市には市行造林がそれなりの面積としてある。旧朝日地区などの本当に手入れされていない箇所もあることを念頭においていただきたい。
⑭	広葉樹資源の活用について、今後も林業としてはスギがメインとなることは間違いないが、今後の新しい可能性は広葉樹資源にあると考えている。広葉樹は多品目の可能性があり、将来のチャレンジ的な意味で広葉樹資源とその利用を育てていくというニュアンスも重要である。
(3) 次回以降の委員会の進め方について	
ヒアリングでは回答を準備するのに時間を要する場合がある。そのため事前にヒアリングを行う場合は内容と時期を教えてほしい。	
(4) その他	
人工林、天然林、竹林などの区分は何から来ているか。不明確である。	